

## 印刷紙器会社ストローベル社 (STROBEL AG)

「顧客ニーズを正確に掌握して最適なソリューションを提供する」

## 印刷紙器会社 FMS 社 (FMS AG)

「創造力に富む専門スタッフと最新 IT システムで対応」



ストローベル社の前で集合写真

ストローベル社の建物は、洗練されたデザインの外観を持

ストローベル社 (Strobel AG)  
従業員50人規模で独特な運営  
売上高8億1000万円

有功社シントー貿易(株) (谷口有三社長) と弊社との共催による「FachPack2018 視察とドイツ紙器業界のツアー」のレポート。今回第三弾は、南ドイツの印刷紙器会社ストローベル社 (フリードリッヒ・ベクトルド社長)、FMS 社 (エリザベス・グラスル社長) を訪ねることができたので、そのもようを紹介する。両社ともシントー・システム社のユーザー企業。経営方針や事業展開の方法について、その実態を浮き彫りにする。

ち、緑のアプローチが心地よい環境を生み出している。階段をのぼり、2階のミーティングルームで、ベクトルド社長からプレゼンテーションを受けた。

「ストローベル社は創業1894年の小規模紙器会社で、オーナー会社。従業員数約50人で、年商は600万ユーロ(約8億1000万円)で、フォルディングカートン、メールボックス、POPなどを安定的に供給しているほか、セットアップ事業も展開している。基本方針としては、サステナビリティ(持続可能性)・顧客ニーズの掌握と迅速なソリューションの提供・高品質製品の納期短縮の3つである」と会社プロフィールをのべたあと、スクリーンを使って同社独自の事業展開を語った。質疑応答も含め、概要はつぎのとおり。



プレゼンテーションするベクトルド社長

「当社の設備は、オフセット印刷機がケーニッヒ&パウアー社製 Rapidal105-5L、抜き工程にはハイデルベルグ社製打抜機 Dymatrix105、ボブスト社製平盤打抜機 Visioncut106LE、製箱工程にはハイデルベルグ社製フォルダーグルアーが2台という状況。主な需要分野は、医薬品、玩具、食品、雑貨、BIO製品などだが、高品質な紙器を迅速に供給するために、最適な設備導入とあわせ、工場環境の構築にも傾注している。環境問題に対応するためのソーラーシステムを導入、毎時200kwの自家発電を実施しているほか、カーボンフットプリントも導入、ゼロエミッションを達成している。サステナブル(持続可能)方策としては2011年から取組をはじめ、特殊構造の屋根、工場内の陽圧、地熱の利用、液化天然ガスの利用、騒音対策、エコ製品の利用、LED照明への切り替えなどを実践。ISO認証、FSC認証、また



ストローベル社の外観

食品が直接触れる紙器パッケージも製造するので、ISEGA認証も取得。ただ医薬品・化粧品、紙器パッケージについては、医薬部外品レベルの紙器を対象に、また高級ブランド化粧品なども意図的にはずしている。これ以外の製品の包装用パッケージ、ブランド製品は相応なアイテムを手がけている。中間に代理店を介さず、直接取引している。また大規模顧客、従業員規模でいうなら1000人以上の企業の製品の紙器パッケージは原則として、対象にしない。

「もちろん紙器の品質には、万全の生産体制でのぞみ、安全な包装と販促効果をモットーに、ほぼ社内ですべてパッケージ



Heidelberg 社製打抜機 Dymatrix



BOBST 社製打抜機 VisionCut



KOENIG&BAUER 社製  
オフセット印刷機 Rapid



工場内全景

の企画からデザイン、製造をおこなっている。とくにフォルディングカートンやPOP、段ボール箱においては、特殊な表面加工や箔押し・エンボス・窓貼り・特殊構造や表面デザイン力、人目をひく大型ディスプレイ、ブランド力のアピール、シニア層に求められる機能を盛り込んだ開発を常に心がけている。またメーリング用パッケージでは、その特性を活かしながらニーズに適した機能を盛り込んだ設計をおこなっている」

「当社は124年あまりの歴史を歩んでいるが、経営上の根本的理念としているのが、お客様との長い信頼関係の構築である」

「当社は家族経営企業だが、一番大事にしているのは人材。50人という小規模企業のため、社員全員が「社長の精神」をもって、仕事をしているといってもいい。現場オペレーターも、品質や仕上がりなどすべてを、工程グループごとに考察している。たとえばミステイクが生じた場合には、必ず全員に詳

新規受注は全体の30%以下となっている。顧客との信頼関係の構築には、毎日の積み重ねが大切で、常にお客様の話に耳を傾け、顧客ニーズを正確に掌握することをつけている。顧客窓口となるスタッフは5人で、1人あたり何社かの顧客を持つっており、電話やメールで直接連絡が入る。担当者とならない場合でも、必ず2時間以内に担当者からソリューションを提供するようになっていく」

「当社は製品のバック作業もおこなっており、約35名の補助スタッフが常時スタンバイしている。この作業場は独立した工場スペースでおこなっており、空調が完備されている。仕事量によって数名から40名が、各スケジュールで対応している。作業時間もフレキシブルであり、午後3時前に終了する時もあり、正社員も含め、平均的な労働時間は週38時間制をとっている」



FMS 社の前で集合写真

細を報告、ミスの再発を防ぐため、情報共有化をすすめている。決して叱りつけることはないので、当事者がその報告をしたあとは、全員から「ありがとう」という言葉を返す習慣になっている」

このあと工場内を見学しながら、現場での活発な質疑応答も数多く見られた。

#### FMS 社 (FMS AG)

従業員90人規模で成長つづけ  
売上高は1億8500万円

FMS社は創業から130年以上の歴史を持つ中堅規模の紙器会社。南ドイツのバイエルン州にあるロイターズハウゼンに所在する。同社社長のエリザベス・グラスル氏により、事業展

開についてプレゼンテーションがおこなわれ、工場内をハンズ・ユルゲン・パウアー氏のエスコートにより見学した。

グラスル社長は、「当社は私の父が、1985年に創業した。父は段ボール箱の製造をおこなっていたが、仕事量の増大に伴い、その年に法人化。現在の本社工場が所在するロイターズハウゼンで事業を拡大していく。ローテンブルクにあった印刷会社を買収したのを機に印刷紙器にも着手、1982年にはそのオフセット印刷設備ほかを本社工場に移設するなどして、印刷紙器工場としての設備も拡充していった。現在、製造拠点として、本社工場とチューリンゲンに所在するクレルパ工場があり、クレルパ工場では本社工場と同様に、抜き・貼り・窓貼り・パンチング・箔押し・エンボス加工などポストプレスの諸設備をそなえている。従業員数は約90人で、営業所は、フランクフルト、シュツツガルト、ニュルンベルグなど4か所に拠点を持っている。生産工場がどちらにも手狭になってきたので、新工場建設を計画している。売上高は約1100万ユーロ(14億8500万円)ほどである。当社は位置的にヨーロッパの真ん中に所在しており、お客様はドイツはもちろん西ヨーロッパ、



展示されている同社製パッケージの ミーティングルームでの参加者一行 数々



プレゼンテーションするグラスル社長(右)と  
ハンス・パウアー氏(左)

東ヨーロッパと広域をカバーしている。主な需要分野は、食品・化粧品・自動車・玩具・雑貨・インテリアと幅広く対応している。当社のパッケージ作りで常に標榜しているのは、紙器パッケージがお客様の要望をきちんと満足させているかどうか、印刷・構造・デザイン・文字表記(他言語での表記も含め)など最適なパッケージになっているかどうかという2点であり、作り手と受け手との「小さな食い違い」を見逃さないよう事業展開している。したがって当社は常に生産面でも管理面でも有能な人材をそろえ、プロフェッショナルなITシステムをベースとしながら、お客様に最適なソリューションを提供し

ている」と経営方針を語った。また紙器パッケージの生産については「主な製品は印刷紙器・一般的な折たたみ箱・スリーブ式パッケージ・高級感のある身蓋式の印刷紙器・合紙貼合品・ディスプレイ・卓上POPなどを製造しており、完全オーダーメイドの紙器についても対応できるシステムを構築している。とくに印刷紙器においては、限られたスペースで販促効果を最大限に引き出すためのデザインが要求されるため、最先端のCADシステムを導入、ホットスタンプング・エンボス・表面加工・スポットニス・窓貼りなどにより、インパクトがあり訴求効果を引き出す紙器パッケージづくりをすすめている。また食品用の紙器も多いので、オフセット印刷工程や後加工工程においても機械、インキ、板紙、接着剤の選定にも十分配慮している。ディスプレイについても、訴求効果がありながらも、簡単に組み立てられ、時間の節約ができる構造設計をすすめている。ただディスプレイは手間がかかることと、クリエイティブな構造設計ができないと伸びていけないので、利益率は紙器に比べるとやや低いかもしれない

## FachPack2018で パッケージフォーラムも 開催

ニュルンベルグ・メッセ会場で開催の FachPack2018 では数々のパッケージフォーラムも開催された。



パッケージフォーラムにも多数が参加

い。もちろん環境対応のパッケージとしてFSC認証は取得している」と説明した。このあと工場内を工程ごとに見学、ケーニッツヒ&パウアー社製ラビタ印刷機(6色+ニスコート)、ハイデルベルグ社製打抜機、ボブスト社製グルアー、合紙機などメインの設備とあわせ、抜型や印刷の保管、デザイン室などをつぶさに見ることができた。

〈Q&A〉

以下はパウアー氏との質疑応答。

— 印刷紙器やディスプレイの平均的なロットは。  
バ氏 200から20万くらい。

い。ディスプレイは平均2000くらいで、サイズはB3が多い。ディスプレイの競合会社はドイツ国内にあるのか。

バ氏 ディスプレイだけを扱う会社も多数あり、とくに大手紙器パッケージ会社では傘下の複数の工場が生産しているの、競争は激しい。

— 板紙はドイツ国内のものを使用しているのか。

バ氏 ほとんどはドイツ国内だが、スウェーデンからの輸入もあり。ただ板紙価格は高騰傾向にあり、製品価格に転嫁がしづらいので、生産性の向上と効率化で対応している。